

林業経済学会2014年秋季大会発表スケジュール

11月8日(土)

開始	終了	A会場：琥珀 (2F)		B会場：翡翠 (2F)		C会場：飛翔 (3F)			
9:00	9:30	早船真智	A1 1980年代後半以降における製紙工場の動態と原料調達の地域的特徴—印刷情報用紙を対象に—	大塚生美	B1 育林経営を阻む諸問題に関する研究—林研グループへの質問紙調査結果を中心として—	劉家セン	C1 中国首都の近郊農村における造林事業の展開と農民への影響	竹本太郎	
9:30	10:00	嶋瀬拓也	A2 製紙資本の多角化水準に関する国際比較：売上高世界トップ100社における製紙関連売上高比率の推移に注目して	久保山裕史	森坂英加	B2 鳥取県日南町における森林管理の歴史的経緯と要因分析—森林所有形態に着目して—	笹田敬太郎		C2 台湾における森林政策の変遷と山地営林場周辺村落への影響
10:00	10:30	多田忠義	A3 東日本大震災後の合板生産体制に関する一考察	芳賀大地	B3 森林経営計画・補助金に関する情報の林家への伝達状況—栃木県を事例に—	曾宇良	C3 台湾経済の展開過程における木材調達方法の変遷—海外投資を中心にして—		
10:30	11:00	古俣寛隆	A4 木質バイオマス発電事業の採算性分析	嶋瀬拓也	金森啓介	B4 高密度網化、高性能林業機械の導入を前提とした集約的施業の採算性について—福井県における事例に基づいた森林団地施業モデル分析—	奥山洋一郎	C4 森林教育施設としての森林・林業博物館	関岡東生
11:00	11:30	大津裕貴	A5 森林資源のマテリアル/エネルギー 利用について	田村典江	B5 森林総合監理士(日本型フォレスター)をめぐる検討の経緯と展望	塩崎智悠	C5 森林教育が継続的に実践されるための条件—福岡県の事例から—		
11:30	12:00		昼休み	枚田邦宏	B6 日本型フォレスターの役割と現状 —他の人材との関係から—	井上真理子	C6 専門高校教科書「森林科学」関連科目の内容の変化—育林分野を中心に—		
12:00	12:30		昼休み		昼休み		昼休み		
12:30	13:00	金山知広	A6 東三河地域における国産材原木の流通構造	山本伸幸					
13:00	13:30	立花敏	A7 秋田県の素材需給に関する計量経済モデルの構築：短期需給見通し作成に向けた試み	相川高信	B7 合併市における独自の森林政策の策定プロセス：組織学習の観点からの分析	大川智船	C7 流域の上下流における住民の森林資源管理に対する意識—高知県仁淀川流域・京都府由良川流域を事例として—	土屋俊幸	
13:30	14:00	正垣裕太郎	A8 国産材需要拡大期における林家の経営対応—宮崎県諸塚村を事例に—	古井戸宏通	B8 第一次大戦後における仏国市町村有林における森林監守人の国家公務員化—Jura県・ショーの森を事例に—	石崎涼子	C8 森林・林業に対する国民意識 —世論調査データからみえること—		
14:00	14:30	志賀和人	A9 北海道におけるカラマツ主伐・再造林の動向と人工林経営問題	伊藤幸男	堀靖人	B9 ハンガリーにおける造林投資会社によるエネルギー造林	齋藤暖生	C9 北欧における万人権をめぐる課題—スウェーデンにおける議論のレビューを中心に—	佐藤宣子
14:30	15:00	柿澤宏昭	A10 北海道東部における森林所有者の経営意識と環境配慮意向	道中哲也	B10 カンボジアにおける主要な州の森林面積と炭素蓄積の見通し				

11月9日(日)

開始	終了	A会場：琥珀 (2F)		B会場：翡翠 (2F)		C会場：飛翔 (3F)		
9:00	9:30	藤掛一郎	A11 2005・2010年農林業センサス林業経営体 個票データの接続と探索的分析	藤原敬	B11 持続可能な森林経営についての合法性証明 木材の可能性ーグローバル環境レジームの中での 日本の林野庁ガイドラインの意味	立花敏	テーマ別セッション「現代インドネシアの森林をめぐる所有と利用： フィールドワークからのフィードバック」	
9:30	10:00	伊藤幸男	A12 林業事業体の地域別動向と特徴	志賀和人	澤登芳英			B12 広葉樹材利用の変遷と今日の課題
10:00	10:30	安藤範親	A13 森林組合合併の経緯と近年の動向	興枅克久	吉野聡	B13 天然塗料“漆”生産における連携と課題-喜多 方漆器を事例として-	澤登芳英	9:25～9:50 藤原敬大 T2 ジャワ島における所有形態が異なるチーク林業 の実態と安定的な木材供給のための課題：国有林と私有林の事例比較を通 じて
10:30	11:00	大地俊介	A14 南九州における機械化主伐小規模事業体の 経営実態：宮崎県広渡川流域の事例		植村哲士	B14 持続可能な森林経営にむけたキハダの事業 化の現状と課題及びその対応		9:50～10:15 水野広祐 T3 ジャワ島における植林ブームとインドネシア林 業史からの意味合い
11:00	11:30	小菅良豪	A15 林業作業員の労働観と労働環境に関する一 考察		柴崎祐一郎	B15 地域資源を活用した山村振興の展開過程と 今後の展望ー北海道黒松内町を事例としてー		10:15～10:40 岩永青史 T4 私有地における地域住民の木材生産を巡る制 度と実態：西ジャワ州タシクマラヤ県の事例
11:30	12:00	昼休み		山本美穂	B16 北関東・たかはら林地の展開過程	山田茂樹	10:40～11:05 前田千春 T5 インドネシアにおける大学演習林の経営に関 する研究：ポゴール農科大学を事例として	
12:00	12:30			昼休み			昼休み	
12:30	13:00	T.E. Jones	A16 Changing Modes of Access and Conservation in Britain's National Parks: A Case Study of the Peak District			八巻一成	昼休み	
13:00	13:30	伊豆菜津美	A17 奄美大島における観光客のレクリエーショ ンに対する評価	甲斐航平	B17 過疎法事業再編下における山村自治体の過 疎対策ソフト事業の活用実態		石崎涼子	12:30～12:55 大田真彦 T7 インドネシア外島国有林の所有・管理・利用 の齟齬から見た森林管理ユニット構想の意義と実態
13:30	14:00	新山佳菜子	A18 国立公園における協働型管理運営体制の実 態と課題	垂水亜紀	B18 地域おこし協力隊による山村資源管理への アプローチ ～高知県の事例より～	12:55～13:20 鈴木遥 T8 マルチアクターによる泥炭地の開発と保全：リ アウ州の事例から		
14:00	14:30	曹禎敏	A19 自然観光資源保全における地元地域の関与 のあり方-岐阜県高山市「五色ヶ原の森」を事例 として-	山本信次	成瀬むつみ	B19 「地域住民自治組織」と公民館の関係性の 実態	13:20～13:45 森下明子 T9 森林減少対策が進む自治体と進まない自治体 があるのはなぜか：東・西・中カリマンタン州を比較する	
14:30	15:00	宮子雄将	A20 中山間地域における『重要文化的景観』地 域形成の実態と課題ー熊本県上益城郡山都町を事 例にしてー		根津基和	B20 山梨県小菅村における自給的土地利用ーい きさつ・実体・課題ー	13:45～14:10 鮫島弘光 T10 カリマンタンにおけるFSC認証択伐コン セッションの拡大とその実際	
15:00	15:30					垂水亜紀	14:10～14:35 河合真之 T11 非林地におけるアブラヤシ農園開発制度と 地域住民の慣習的土地利用：東カリマンタン州を事例として	
15:30	16:00						14:35～15:00 寺内大左 T12 石炭開発と地域住民の対応：東カリマン タン州西クタイ県の事例	
							15:00～16:00 総合議論	